

研究テーマ： 豊かな表現力を身につける活動

所属 氏名 R G	本川村立本川中学校 川村節子 J H 1
-----------------	----------------------------

1 研究の背景

本川中学校は本川村にあるただ一つの中学校で、過疎化の影響により年々生徒数が減少してきた。各学年の生徒数が10人前後から、0人の場合も出てきた為、平成14年度から本格的に山村留学制度を取り入れた。高知県内はもとより、沖縄、埼玉、滋賀県等、県外からも生徒が集まって学校生活を送っている。平成15年度は、一年間の中で人数の増減があったものの、平成16年1月1日現在21名の生徒が在学している。

1 学年：地元小学校卒業生3名、山村留学生3名、転校生1名 計7名

小学生の頃から英語学習を始めて、中には入学時に1学年半ばまでの学習内容をすでに知っている生徒達、ローマ字の学習経験がなく、アルファベットを書いたり、覚えたり、読んだりすることなどが苦手

でなかなか学習習慣が身に付かない生徒達、徐々に習慣が身についてきた生徒達に三分化している。

2 学年：地元小学校卒業生0人、H14年度転校生2名、山村留学生2名、H15年度山村留学生3名

H15年度転校生2名 計9名

男子は英語に対して積極性が乏しく苦手意識が強い。ペア学習を好む傾向にある。女子は逆に英語や国

際理解に大変興味関心が高い。

3 学年：H13年度転校生2名 H14年度転校生1名 山村留学生1名 計4名

学習態度がよく、意欲が高く、飲み込みも早い。自主学習の習慣がある。

本川学級：障害児学級1名 学級担任及びALTで授業をしている。

校区外もしくは県外から本校に山村留学生、転校生として入学し、親元を離れて寮生活をしている生徒達が多く、本校へ来て初めて机を並べ同じ環境で勉強をしている。つまり小学校時代や中学一年生の時の既習事項や知識に違いがある。本校は極小規模校で人数が少ない為、本川村の事業として2年生、3年生の希望者全員がオーストラリア研修に行くことができる。またALTが常駐しており、全授業に参加してくれるという、国際理解の為に大変恵まれた環境の中で英語学習を行うことができる。しかし男子の多くは単語を覚えたり、文章を書いたりするのが非常に苦手である。逆に女子は会話を積極的にしようと意欲的である。そのような中で、海外で「上手に話したい、意志を伝えたい。」という男女共通の希望を受けてこのテーマを選んだ。

2 リサーチクエスト

「基本的な会話表現を使い、文化や言語についての知識を膨らませながら積極的にALTと会話を持続させることができる」

3 予備調査

授業観察

・ALTとの国際理解授業(3学年)

オーストラリア海外体験学習に向けて、初めて出会うALTをホストファミリーと想定して挨拶、自己紹介、日本文化の紹介を英語で行える力をつける。実際活動をしてみることで、自分が話したいことをいかに伝えることができるかを考えて工夫して話すことができた。

C R T 分析

・話す、表現する力が比較的高いのに対し、書いたり読みとる力が低い。

アンケート・授業評価の結果

a 定期テストスピーキングテストとALTによる個別能力データ

○意欲的、積極的に話すことができる

×文章を正しく構成して話すことができない。

×抑揚等の表現力が乏しい。

b 生徒対象のアンケート結果

・単語が覚えられない。

・文字と音がつながらない。

・書けない・・・読めないから書けない。

生徒の自己評価

授業を振り返り、自分の態度及び学習内容の確認等を行う。

4 仮説の設定

仮説1 質疑応答パターンをプリント上にリストアップし、毎時間反復練習を行えば、基本的な英会話を口に出すことに慣れていくだろう。

仮説2 実際にネイティブスピーカーと接することにより、コミュニケーションの楽しさや意志を伝える難しさ、様々な手段を発見することができるだろう。

仮説3 発音練習を様々な方法で繰り返し練習することにより、表現力がつくだろう。

仮説4 文章構成のパターンを復習で再認識することで、スピーキングに自信がつくだろう。

仮説 5 ある話題について A L T と英会話をする機会を繰り返す中で、内容を膨らませながら 3 分以上のコミュニケーションを続けることができるようになるだろう。

5 計画の実践

(1) 各月の英会話プリント : A L T が質問プラス返答のパターンを No.1 ~ 21 までリストアップする。
毎授業 10 分間のペア英会話練習 【仮説 1】

例: 5 月の英会話

- 1 . How old are you ? ----- I'm 13/14/15 years old.
1 1 . Do you understand ?----- Yes, I do.
~ 21 まで

(2) オーストラリア研修中の英会話実践結果のまとめ【仮説 2】

項目ア 言えた英語 イ 各場面で聞き取れた英語 ウ 聞き取れなかった英語 エ 役に立った事前学習
オ 言葉以外の伝達手段 カ 学習不足だったこと

(3) アンケート

一学期の英語学習について

{ ア読む イ書く ウ聞く エ話す オ文法 カ長文読解 キ発音、強弱 ク表現 }
得意なこと 苦手なこと 努力したこと 分からないことや困っていること
もっと学習したいこと 先生への注文 やってよかった勉強方法や活動

(4) 発音練習【仮説 3】

- フォニックスの活用 動物や食べ物等、単語や絵、カルタ遊びを取り入れながら学習する。
- Tongue Twister (早口言葉) アルファベットの正確な発音の反復練習及び流暢なスピーキング訓練
- 発音練習プリント
- 教科書の基礎読み、集団読み、個人読み、テンポ・トーンの変化読み、回転読み、競争読み、早読み
- 教科書 ロールプレイ (劇)
- リーディングテスト 自己評価及び相互評価

e. 劇 「The Happiest Day」 A L T 制作物語 嶺北イングリッシュコンテスト参加

(5) カードゲーム【仮説 4】

(6) 英会話練習【仮説 4】

(7) 英会話テスト【仮説 5】

評価: 流暢さ / 正しい文章 / 態度 / 声の大きさ / 発音や強弱 / 話題性 / 質疑応答の能力

(8) アンケート

6 実践の結果

話すこと、英語を口に出すことに消極的である生徒がもともと多かったが、様々な機会を作り学級の仲間の前で活動を繰り返すことにより、全員があまり抵抗なく英語を発音できるようになった。また英会話を意欲的にできない要因にそれを実際に活用する場面がないからだと思われるが、海外研修や発表会、テストという目的を持つことにより、練習や学習に熱心に取り組むようになった。特によりナチュラルな英語表現の仕方を学び実行しようとする意欲が高まった。

7 結果の検証

生徒のアンケート結果 A

読む: 発音がよくなった。大きな声が出せるようになった。すらすらとナチュラルに読めるようになった。

話す: ハキハキと区切りよく。強弱をつけてなめらかに。日常会話のようにナチュラルに。

聞く: 話の内容を理解してそれに適切な反応ができる。聞き取るポイントがつかめた。

表現: 感情が表せるようになった。

アンケート B 生徒数 21 名 複数回答

	Q 英語学習で得意なこと		Q 苦手なこと		Q 英語学習でよかったこと
	実践前	実践後	実践前	実践後	
読む	5 人	7	5	4	・ 劇 ・ カードゲーム
発音	3	4	7	7	
聞く	2	2	4	5	Q もっと学習したいこと ・ 発音から書くきまりなど ・ 文章構成 ・ 英語っぽく話したい
話す	3	6	6	5	
表現	1	3	8	4	

8 成果と今後の課題

A L T や海外の人とコミュニケーションをとりたい、という意欲旺盛な生徒でも「英語が下手だから」「文章が作れないから」という様々な要因から消極的な態度となる。様々な方法で練習を行い、繰り返す中で表現方法を知り、英語を口にすることを楽しむ生徒が増えた。しかし ALT との英会話になると質問に対して Yes, No の返答に一言付け加えたり、文章を正しく作ることがなかなかできない。そこで 1 年生では、極初歩的である会話や文章を正確に話せること、2 年生ではそれに自分の意志を付け加えること、3 年生では、相手の考えや気持ちを読み取り、それに対する自分の気持ちや意見を述べられる力をつけていきたい。これからさらに英語学習に対して生徒達が積極的になるように、効果的で興味を持たせるような指導方法を研究し続けることが必要である。